

宮城労働局第14次労働災害防止推進計画の概要

令和5年(2023年)4月1日～令和10年(2028年)3月31日までの5か年計画

計画の方向性

- 厳しい経営環境等様々な事情について、それらをやむを得ないとせず、**安全衛生対策に取り組むことが、事業者にとって経営や人材確保・育成の観点からもプラス**であると周知する等、**事業者による安全衛生対策の促進と社会的に評価される環境の整備**を図っていく。
- 引き続き、中小事業主なども含め、事業場の規模、雇用形態や年齢等によらず、**どのような働き方においても、労働者の安全と健康を確保する**とともに、誠実に安全衛生に取り組まず労働災害の発生を繰り返す事業者に対しては厳正に対処する。

重点対策

労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進
（**社会福祉施設**における該当項目は以下のとおり）

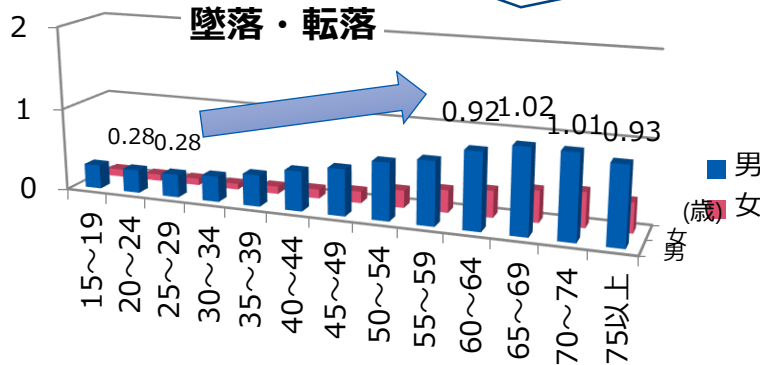
(ア)

- **転倒災害対策**（ハード・ソフト両面からの対策）に取り組む**事業場の割合**を2027年までに**50%以上**とする。
- **卸売業・小売業／医療・福祉の事業場**における**正社員以外の労働者への安全衛生教育の実施率**を2027年までに**80%以上**とする。
- **介護・看護作業**において、**ノーリフトケアを導入している事業場の割合**を2023年と比較して2027年までに**増加**させる。

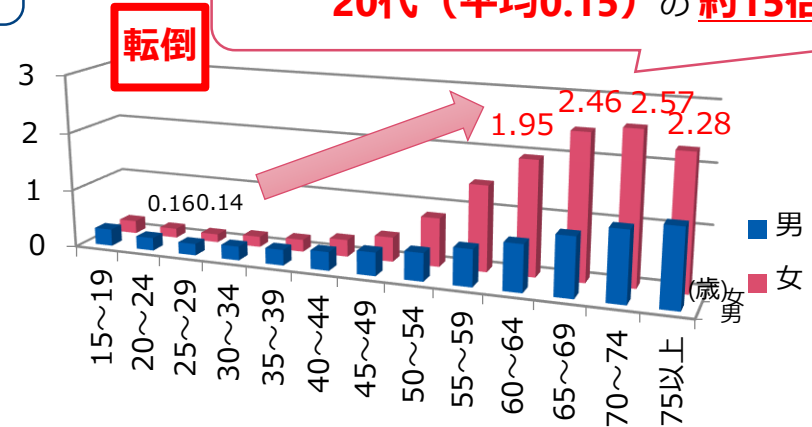
事故の型別毎の労働災害発生状況

- 転倒は、**高齢になるほど労働災害発生率が上昇。**
 - **高齢女性の転倒災害発生率は特に高い。**
- ⇒ 年齢の上昇に着目した対策は転倒、墜落・転落で特に重要な課題
(とりわけ中高年齢女性の転倒防止)

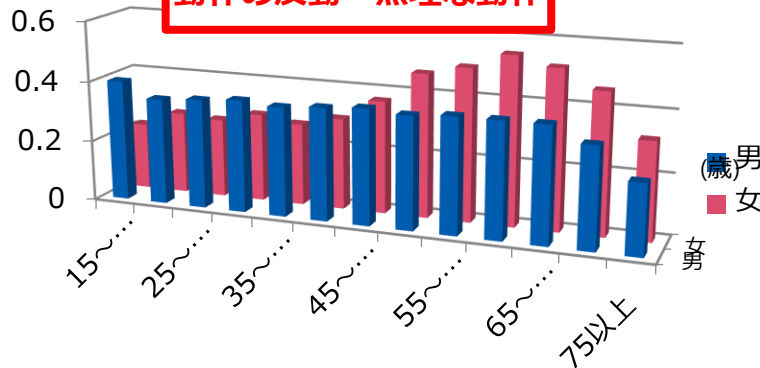
男性の場合、60代以上 (平均0.97) は
20代 (平均0.28) の **約3倍**



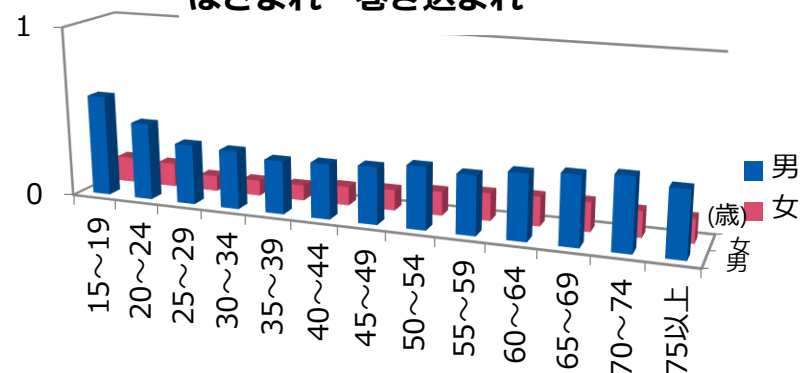
女性の場合、60代以上 (平均2.24) は
20代 (平均0.15) の **約15倍**



動作の反動・無理な動作



はさまれ・巻き込まれ



※千人率=労働災害による死傷者数/その年の平均労働者数×1,000
※便宜上、15~19歳の死傷者数には14歳以下を含めた。

データ出典：労働者死傷病報告 (令和3年)
：労働力調査 (基本集計・年次・2021年)

重点事項ごとの具体的取組

(ア) 労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進

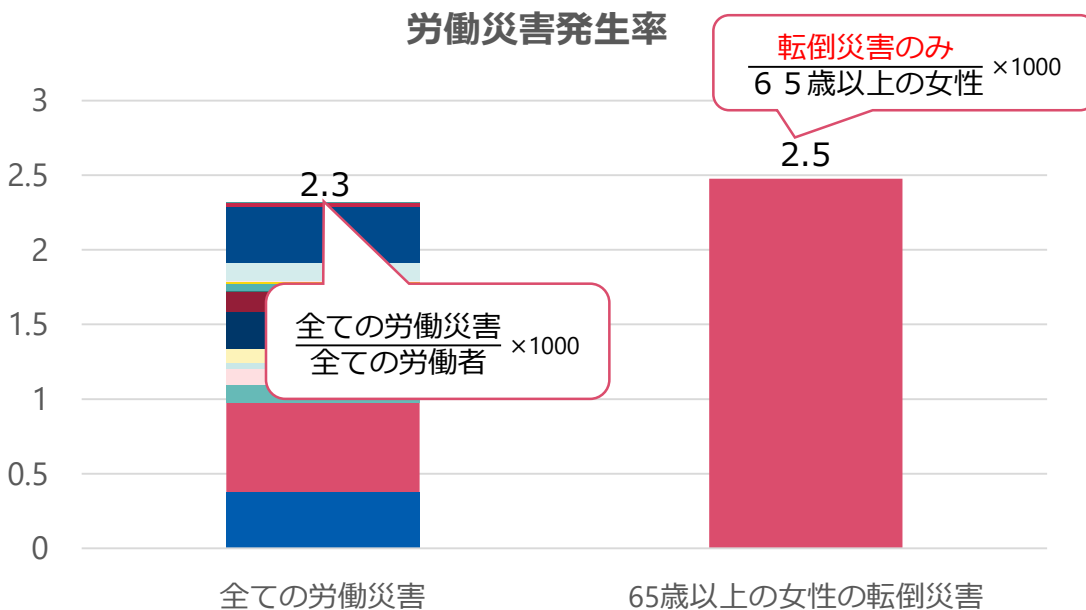
事業者に取り組んでもらいたいこと【転倒予防対策】

転倒災害は、加齢による骨密度の低下が顕著な中高年齢女性を始めとして、極めて**高い発生率**となっており、**対策を講ずべきリスク**であることを認識する。

■ 転倒災害の発生率

高年齢女性は、転倒災害の発生率だけで、全労働者の全ての労働災害の発生率よりも高い。

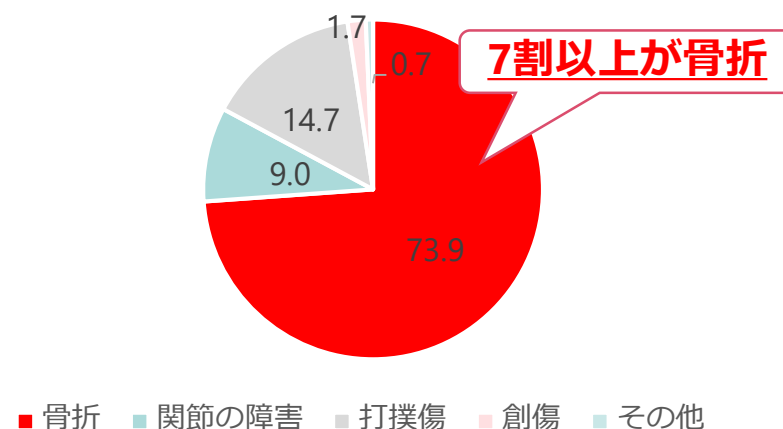
労働災害発生率



■ 転倒災害のリスク

中高年齢女性は、骨密度の低下により、骨折しやすいため、休業日数が1ヶ月を超える重篤な災害になり得る。

50歳以上の女性における転倒災害の傷病性質内訳



全ての労働者の
転倒災害による**平均休業見込日数**は**47日**（令和3年）

- 墜落、転落
- 転倒
- 激突
- 飛来、落下
- 崩壊、倒壊
- 激突され
- はさまれ、巻き込まれ
- 高温・低温の物との接触
- 切れ、こすれ
- 踏み抜き
- おぼれ
- 有害物等との接触
- 感電
- 爆発
- 破裂
- 火災
- 交通事故（道路）
- 交通事故（その他）
- 動作の反動、無理な動作
- その他
- 分類不能

重点事項ごとの具体的取組

(ア) 労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進

事業者に取り組んでもらいたいこと【転倒予防対策】

転倒しにくい環境づくり（段差の解消・見える化、通路や作業場所の床の水等の拭き取り、整理整頓の徹底等のハード対策）だけでなく、**個々の労働者の転倒や怪我のしやすさへの対応（転倒等リスクチェックの実施と結果を踏まえた運動プログラムの導入等、骨粗しょう症検診の受診勧奨等のソフト対策）**に取り組む。

■ 転倒等リスクチェック

転倒等リスク評価セルフチェック票

I 身体機能計測結果

① 2ステップテスト（歩行能力・筋力）
あなたの結果は cm / cm (身長) = 評価

評価	1	2	3	4	5
結果/身長	~1.24	1.25 ~1.30	1.31 ~1.40	1.41 ~1.47	1.48 ~1.66

② 座位ステップテスト（敏捷性）
あなたの結果は 回 / 20秒 評価

評価	1	2	3	4	5
(回)	~24	25 ~28	29 ~43	44 ~47	48 ~

③ フังก์ショナルリーチ（動的バランス）
あなたの結果は cm 評価

評価	1	2	3	4	5
(cm)	~19	20 ~29	30 ~35	36 ~39	40 ~

④ 開眼片足立ち（静的バランス）
あなたの結果は 秒 評価

評価	1	2	3	4	5
(秒)	~7	7.1 ~17	17.1 ~55.1	55.1 ~90.1	90.1 ~

⑤ 閉眼片足立ち（静的バランス）
あなたの結果は 秒 評価

評価	1	2	3	4	5
(秒)	~15	15.1 ~30	30.1 ~84.1	84.1 ~120.1	120.1 ~

II 質問票（身体的特性）

質問票	あなたの回答NOは	合計	評価	評価
1. 人の中で、正座から立ち上がるときにふらつき、よけて歩きますか	<input type="checkbox"/>	合計点数 4~5 1 6~7 3 8~9 4 10 5	評価表	① 歩行能力・筋力
2. 両手広げて歩いて歩くと歩幅は狭くなりますか	<input type="checkbox"/>			② 敏捷性
3. 突発的な事柄に対する体の反応は早いですか	<input type="checkbox"/>			③ 静的バランス（開眼）
4. 歩行中、小さい段差に足をついたら、すぐに足を止めますか	<input type="checkbox"/>			④ 動的バランス
5. 歩道で歩いたとき、足元を見ながら歩きますか	<input type="checkbox"/>			⑤ 敏捷性
6. 一歩踏み出したときに、膝が足指で蹴られるように感じますか	<input type="checkbox"/>	⑥ 静的バランス（閉眼）		
7. 階段を降りるときに、つま先で歩きますか	<input type="checkbox"/>	⑦ 動的バランス		
8. 電車に乗って、つり革につかまらずに歩きますか	<input type="checkbox"/>	⑧ 静的バランス		
9. 階段を降りるときに、つま先で歩きますか	<input type="checkbox"/>	⑨ 動的バランス		

III レーダーチャート

評価結果を転記し線で結びます
【Iの身体機能計測結果を数字、IIの質問票（身体的特性）は赤字で記入】

■ 運動プログラムの導入等

労働者の身体機能低下を抑制し、転倒災害を予防する。
中災防
転倒災害防止のための身体機能向上セミナー

厚生労働省 毎日3分でできる
転びにくい体をつくる職場エクササイズ



■ 骨粗しょう症検診の受診勧奨

特に高齢女性に対して、市町村が実施する「骨粗しょう症検診」の受診を勧奨する。

重点事項ごとの具体的取組

(ア) 労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進

事業者に取り組んでもらいたいこと

特に第三次産業において、注意喚起をしておくことで防げた災害も多いことから、**パート・アルバイトの労働者も含めて安全衛生教育を着実に実施**する。

■ 安全衛生教育の実施

小売業では47%、医療・福祉では44%が**正社員以外への雇入時教育を未実施**（平成28年）

（小売業や介護施設等では人手不足により業務多忙が常態化していること等から、雇入時教育等の安全衛生教育が適切に実施されているとはいえない実態がある。）

動画を活用して労災事故発生防止！



食品スーパーマーケットという**パートタイム社員やアルバイト社員が多い業種**のため、**入社時の安全教育や継続的な啓蒙活動を、より分かり易く伝えるための動画教材**を作成しました。

店舗社員が普段からよく知っている、営業や店舗支援業務を担う部署に属する社員が、自ら説明することでより具体的に伝わりやすい内容となりました。



【その結果】

- ・労災事故の発生防止につながり、新規出店や社員の入れ替わりにより新規入社者が多い中でも、発生件数の千人率は過去最低となっている。
- ・また、伝える内容にブレがなくなり、全店の安全教育のスタンダードレベルのアップにも繋がった。

事故を未然に予見する！KYT活動（危険予知トレーニング）



【背景】

- ・店舗メンバー：約24,000人が在籍
- ・パート、アルバイトへの安全教育が行き届いていない
- ・店舗規模（従業員数）が30人～250人と格差が大きい

【目的】

- ・危険予知ができるメンバーを育成し、事故を予見することで未然に防止する

【内容】

- ・デジタルツール「Forms」を利用し、システム開発費用はなし
- ・店舗用スマホ型端末を使用し、個々の労働者のスケジュールに合わせて危険予知トレーニングを実施できる
- ・前月の労働災害を題材にすることが可能であり、毎月繰り返し実施する事で継続的な教育ができる

12月度KYT(危険予知トレーニング)活動



【回答選択式】

- カゴ車の車輪で足を踏む
- カゴ車が転倒して下敷きになる
- カゴ車の底板が抜ける

※毎月、15～25間前後出題

【対象人数】

全店舗（24,000人）

【定量的効果】

- ・月間平均実施率：88%
- ・月間平均実施人数：約20,000～21,000人

アウトプット指標（2027年まで）

- 転倒災害防止（ハード・ソフト両面からの対策）に取り組む**事業場の割合を50%以上**とする。
- 卸売業・小売業／医療・福祉の事業場における**正社員以外の労働者への安全衛生教育の実施率を80%以上**とする。

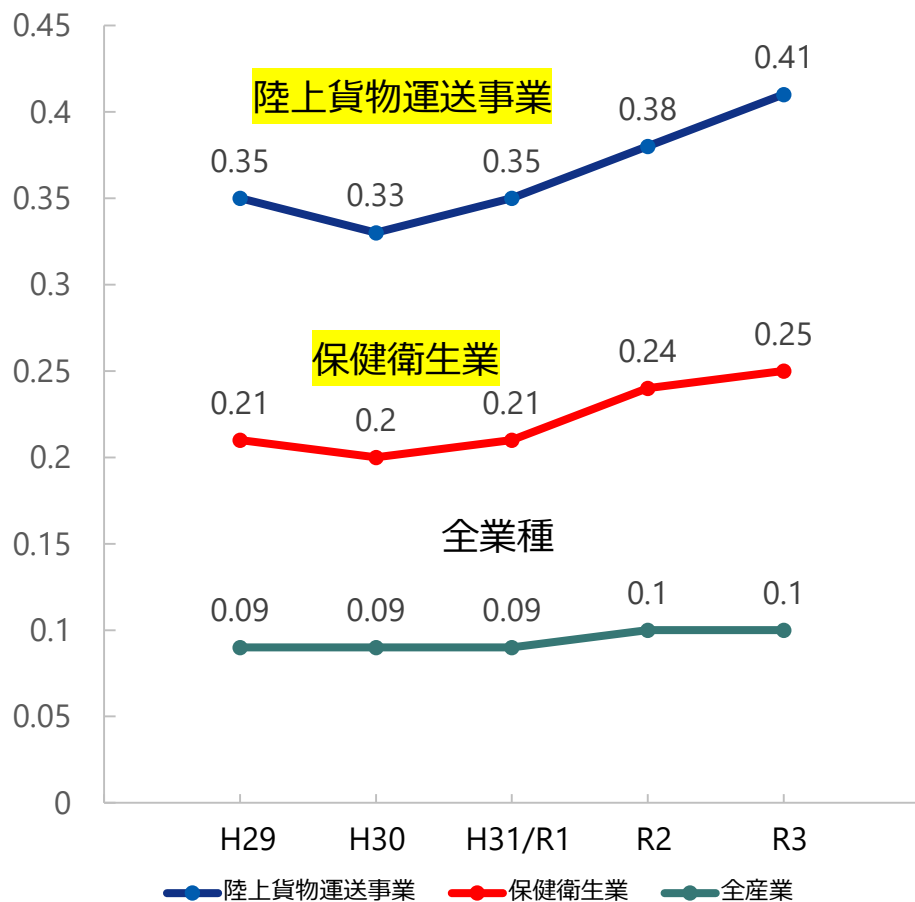
アウトカム指標（2027年まで）

- **増加が見込まれる転倒の年齢層別死傷年千人率**を2022年と比較して男女ともその**増加に歯止め**をかける。
- 転倒による平均**休業見込日数**を**40日以下**とする。

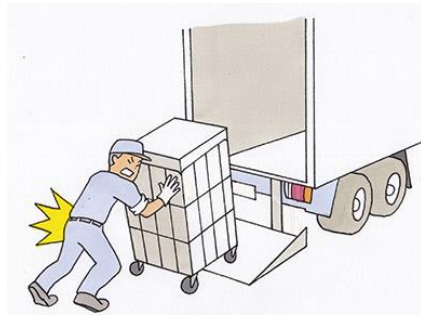
職場の腰痛災害を取り巻く現状

腰痛災害は、**陸上貨物運送事業、保健衛生業で多発**しており、職場復帰まで長い期間がかかるほか、経験年数の短い労働者も被災している

業種別 千人率



【陸上貨物運送事業の災害事例】



被災者情報	
年齢、性別	20代、男性
休業日数	1か月
経験年数	1年

納品先で台車を使って運んでいたところ、荷が倒れそうになったので支えた際に腰に痛みを感じた

【保健衛生業の災害事例】



被災者情報	
年齢、性別	20代、女性
休業日数	3か月
経験年数	1か月以内

浴場に移送するため利用者を抱え上げようとして、腰に痛みを感じた直後動けなくなった

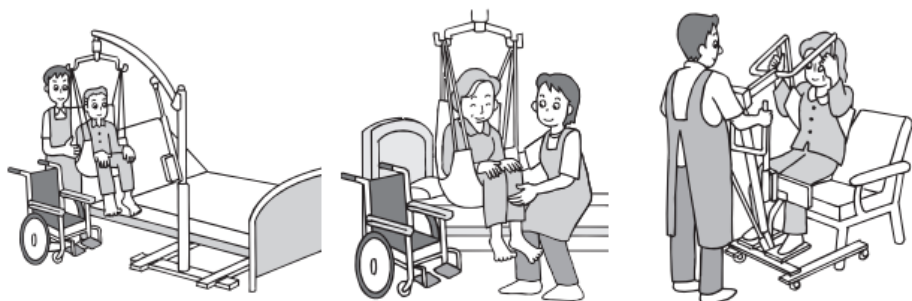
重点事項ごとの具体的取組

(ア) 労働者（中高年齢の女性を中心に）の作業行動に起因する労働災害防止対策の推進

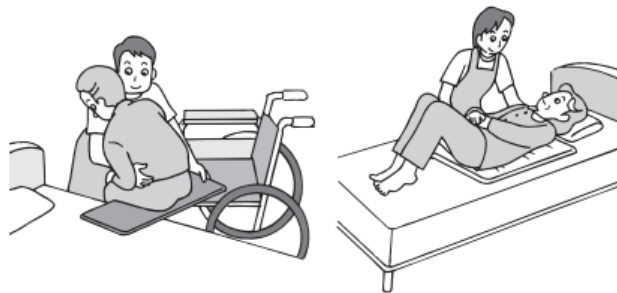
事業者に取り組んでもらいたいこと【作業に合った腰痛予防対策】

介護・看護：身体の負担軽減のための介護技術（ノーリフトケア）や介護機器等の導入

荷物取扱い：人力による重量物の取扱いをできるだけ避け、リフターや自動搬送装置を使う
重量物注意の警告表示を行っている 等



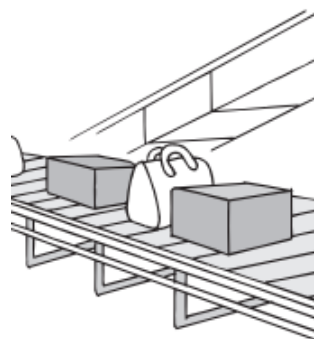
抱え上げない介護・看護で、腰痛を防止しましょう！



【スライディングボード】 【スライディングシート】



【リフター】



【自動搬送装置】



【重量物注意の警告表示】

アウトプット指標（2027年まで）

- 介護・看護作業において、ノーリフトケアを導入している事業場の割合を2023年と比較して**増加**させる。

アウトカム指標（2027年まで）

- 増加が見込まれる社会福祉施設における腰痛の死傷年千人率を2022年と比較して**減少**させる。